1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 12 月 29 日発行　SSKU　増刊通巻第 6635 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL:03-3598-3337

http://www.wakuwakukan.net/

SSKU わくわくかん リボン便り

2020 年 1 月号 No.226

シャケ Zo くん

？？なぜリボン？？

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

新年にあたっての抱負

キーワードは「共同」と「連携」

理事長　斎藤　縣三

2020 年あけましておめでとうございます。年をとると１年が過ぎるのが早いもので、わたしにとっては、本当に「あっ」という間の１年でした。みなさんにとって、2019 年はどんな年でしたでしょうか。2020 年は、東京オリンピック・パラリンピックの年で、また都知事選の年でもあり、東京は善きにつけ悪しきにつけ、いろいろと大変な年となるでしょう。

さて、わくわくかんはどうかといえば、昨年は冒頭に厳しい状況にあるとたくさん書いてしまいました。１年かかっても、その状況は簡単には克服できません。しかし、2020 年こそはピンチをチャンスにできるような新年早々から希望のもてる研修会を開催していこうと思っております。20 年近く積み上げてきた事業に、新しい時代に対応した方向転換を与えることの出発となる年としたいものです。

依然として障害者福祉分野への企業の参入は拡大しており、金儲けに毒された「福祉の劣化」が進んでいます。政府は、地域共生社会に向けた包括的な支援を提唱し続けていますが、思ったような成果は生み出せていません。そして、今また「社会福祉連携法人」なる制度を掲げ、地域での福祉事業再編を進めようとしています。

そうした大きな動きの中で、わくわくかんは、どのような舵取りをしていくべきなのか。

わくわくかんとしては、これからの方向として次の２つのキーワードを大切にしていかなければならないと考えます。それは、「共同」と「連携」です。

12 月に赤羽会館で開かれた共同連マラソントークにおいては、東京荒川区の「あうん企業組合」から片付け整理事業を中心として東京や千葉の生活クラブ生協関連の事業所にネットワークをつくり更なる事業展開を進めているとの報告がありました。あうんは、新たなどっこい食堂を始めるためのクラウドファンディングにも取り組んでいます。とっても力をいただけるお話でした。わたしは、共同連を代表して、共同連がこれからめざすべき方向としての「社会的協同組合」のことを話しました。それは福祉事業とは異なり、皆が組合員として共同し事業を進めていく形態です。「あうん」は、それと似た仕組みで運営されています。

非営利連携事業と「住まい」に

また、わたしのいる名古屋・わっぱの会では、一昨年春「ソーネおおぞね」という大きな地域交流拠点をつくり出しました。これは、ある民間企業が大きな公営住宅の中につくり出した分散型サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)「ゆいま～る大曽根」との連携の中で生み出されたものです。この流れの中で、東京でも住まいづくりと連携する新しい「福祉」のあり方がこれから求められてきます。更に、わっぱの会では、今国交省が進めている住まいに困っている人々のための「居住支援法人」を昨年つくり活動を始めています。これまでの福祉に欠落していた「住まい」の問題は、これからの活動・事業にとって重要な要素です。

以上いろいろ書きましたが、これらの事例を参考にして、わくわくかんで具体的にどう行動していくのか。人と人とが「共同」し、団体どうしや地域と「連携」して、わくわくかんの 2020 年の具体的な展望を書き込みましょう。

＜わくわくかん１月予定表＞

- ✧ 1 月 11 日(土) 津久井やまゆり園事件シンポジウム 13:30～ かながわ県民センター
- ✧ 1 月 11 日(土) はたらっくす 16:00～ トライ・ザ・ブルースカイ 17:00～（自立訓練室）
- ✧ 1 月 13 日(月)「共働」のネットワークをつくる 13:30～ 都立多摩図書館 主催 ともっと事業体
- ✧ 1 月 18 日(土) 共同連全国セミナー 13:30～ 名古屋今池ガスビル 7F
- ✧ 1 月 29 日(水) 現場協議会 16:00～ スカイブリッジ

1998 年 10 月 9 日　第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 12 月 29 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6635 号

わくわく配食サービス

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

炊飯器で作る鯛めし

あけましておめでとうございます！
今年も体調と相談しながら焦らずに、楽しい一日になるようがんばりましょう！
リボン便り新年号とのことで、お祝い事には欠かせない鯛飯を作ってみましょう。
尾頭付きを土鍋で豪快に炊くのも楽しいですが、最近は骨抜きのお魚がたくさん流通していますので炊飯器を利用するのもよいと思います。鯛は低脂肪、高たんぱく、消化吸収もよく年末年始の疲れた胃腸にもぴったりです。ミネラルが少ないのでわかめや小松菜のお吸い物を添えれば栄養バランスもよくなります。

炊飯器で作る鯛めし

【材料】4 人分
お米　2 合
小ぶりの鯛、または 2 切れ
だし汁　３００ml
薬味　　三つ葉など
薄口しょうゆ　大さじ２
みりん　　大さじ２
酒　　大さじ２

【作り方】
① 鯛の切り身をボウルに入れて薄口しょうゆ、みりん、酒を混ぜたものに 30 分くらいしみこませておきます。
② その間に米を研いで 30 分～1 時間くらい浸水させておきましょう。
③ お米の浸水が終えたら、一度ざるにあけて水気をしっかり切ります。そこに、鯛のつけ汁を入れ、そこにだし汁を 2 合の目盛りをいれて全体を混ぜ合わせます。
④ そこに、汁気をきった鯛の切れ目をおき、炊飯器の普通炊きでスイッチをいれます。
⑤ 炊き上がったら、鯛を取り出し、小骨を取り除き、全体を混ぜます。
⑥ 最後に三つ葉などの青見を飾り出来上がりです。

◎配食サービス　12 月 28 日～1 月５日まで年末年始のお休みをいただきます。

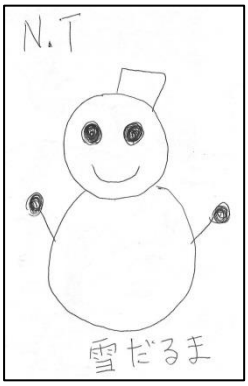
配食開設して 10 年目を迎える年

昨年は異様なほどの忙しさと売上げアップ

年の始めに、昨年の異様なほどの忙しさを思い出します。3 年に一回の第 3 者評価、配食サービス開設 9 年目にして初めての東京都と北区の監査、東京都からの経営改善のためのコンサルタント派遣と当たり年？(もう少し、テンションが高くなるものにあたりたいものですが(笑))

そして、忙しかった理由の一つに大口が一つ増えて 7 月からの売上が上昇し、昼の提供はほぼ毎日百食以上を販売出来ています。

日々の仕事で、鍛えられて盛付けの腕があがり、当事者スタッフ一人一人がスムーズに仕事ができる様になっていると思います。売上もぐっと増えて、開設以来一番多い売上になりました。　働く場所として、当事者スタッフからのご意見として公私の別をしっかり分ける、挨拶はしっかり、でも私言はなるべく少なくなどありました。こうした意見が上がる理由の背景には、いろいろな出来事があり様々な場面で考えさせられる状況がありました。



そうした、状況の変化に私自身どのくらい対応出来たかと内省してみると、自分の抱えている仕事を考えると限界に近いものがあるかと思いますが、自分自身ももう少し何か出来たのではという思いになります。

年の始めに願うのは、開設して 10 年目を迎える年であり、昨年の飛躍を更に伸ばせるような事業展開とのことです。さらに働く場所であり一人一人の頑張りが目に見えて売上に直結することを忘れずに互いを思いやり、何か問題がある時は他人事にならず一緒に考えていける体制作りが出来たら良いと思います。

管理者のもう一つの福祉サービスとしての東京都、北区からのご指摘の改善を含めて安定感のある事業運営となるべく早い後継者作りを課題にしたいと思います。

そして、お弁当をご注文いただける方々にはより美味しく安心、安全な食事を提供していける体制を目指したいと思います。

1998 年 10 月 9 日　第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 12 月 29 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6635 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F
TEL 03-5963-6888

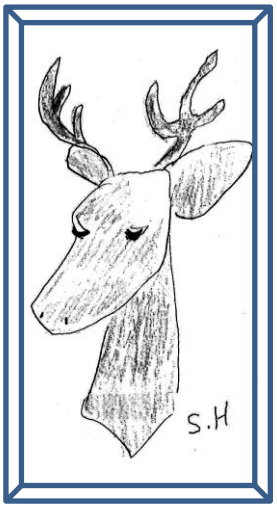
スペシャル外出～池袋～

11 月 22 日金曜日。本日は、予算が出ていつもは行けない所へ行ける、年に 1 度のスペシャル外出です。今年は、池袋のサンシャイン水族館を見学、サンタがエサやりするのを見て、しゃぶしゃぶの食べ放題。

センターから王子駅まで歩きながら、都電でサンシャイン前まで移動。そこから、少々歩いて裏側からサンシャインシティへ。水族館に入場して自由見学。都心の水族館なので、あまり大型の生物は展示してませんでした。12 時 30 分からアシカのショーを見たのですが、寒いは、風は冷たいは、腹は減っているはで、ちょっと楽しむ余裕は無かったです。

13 時から待ちに待った、しゃぶしゃぶ食べ放題。牛肉も食べられるコースにしたため、ドリンクバーは無しでした。私は、男性のみの席に座ったので、野菜はサラダ少々。ひたすら肉を食っていました。時間はランチタイム終了の 16 時までいても良かったのですが、それ程多くは食べられません。ちょうどプログラムが終わる 14 時半ぐらいに、お開きとなりました。池袋駅前で流れ解散。充実した 1 日でした。

（S.M）



1 日クッキング

11 月 15 日（金）、1 日クッキングのプログラムで、豚肉の生姜焼き、ナスのチーズ焼き、豆乳プリンを作りました。みんなそれぞれの担当する料理にわかれ、僕は豆乳プリンを作りました。クッキングは食材の買物・調理・後片づけなどのすべての作業をスタッフと利用者が協力して行い、生姜焼きと、チーズ焼きはボリュームがあるものができました。豆乳プリンは、それぞれの好みで黒みつときな粉をかけて食べました。全体的に美味しく、満足のいくものができたと思いました。（J.M）

花の植え替え

11 月 12 日、花の植え替えをした。植える花は、ノースポール、プリムラポリアンサ、葉ぼたん、パンジー。植える前に少し花の勉強をして植えに行きました。私は初めてで、何をしていいのかわからず割とどころか完全に人任せになってしまった。できたコトといえば、水やりくらいでした。でも土をさわると心が少しおちついてくるものだなーと思った。

そして後日談…せっかくみんなで植えた花が抜き取られて、ちょっとさみしくて、くやしくて、欲しいなら自分で買えばいいのにと心の中で思いました。　（K.T）

2020 年にこれはやってみたいこと。

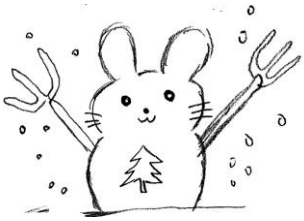
個人的には結婚したいなと最近よく思う。寂しいのはもう嫌で、嫌。相手を見つけて早く結婚できたらいいなって思う。　（K.T）

タバコを、禁煙できたらなあって思いました。長年禁煙すると言いながら吸っているので、来年こそは！と思いながら、まだ喫っている自分がいます（笑）
でもなんだかんだ言って辞めないのが簡単に予想できます。
趣味としてのタバコを認めて欲しいな、ってのが私の願いでもありますね。　（Y.T）

2020 年に、これは、やりたい…。

パソコン入力等の効率良い作業を目指し、頑張ります。体力に合ったスポーツ量を知り、無理ない行動をします。学べているか、チェックして、ひとつひとつ丁寧に学びたい。　（T.D）

響の作品展



1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可 （毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 12 月 29 日発行 SSKU 増刊通巻第 6635 号

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト

〒114-0032 東京都北区中十条 1－2－18
北区障害者福祉センター４F Tel：03-5963-6888

実習、就職活動の動きが活発に
模擬面接や書類作成、そして就労へ

今年も残すところあとわずかとなりました。そんな中、リボーンでは実習に向けた準備や就職活動など、次のステップに進まれる方が増えました。自習の時間を用いて自分を振り返り、配慮事項の整理や自己 PR 作りをスタッフと一緒に取り組んでいます。

面接の前には模擬面接を行い、準備したことを実際に話せるように練習します。とても緊張しながらの練習ですが、一生懸命な気持ちが伝わってきます。何度も練習をすることで、本番では落ち着いて話すことができると思います。

応募書類の作成、面接練習、と頑張っている姿を見ると、いよいよ卒業が近づいているんだな・・・と思います。これまでのことを思い返すと少し寂しいですが、新たな一歩を踏み出す姿は頼もしくも感じます。皆さんが希望する仕事に就き長く働けるよう、引き続きスタッフ一同、実習・就活を応援していきたいと思います！

【就職活動での今の気持ち】

2018 年 3 月からリボーンプロジェクトにお世話になり、一年半以上が過ぎ、私も就職活動を始めることになりました。前職の介護の仕事に今一度就けたらと思い、活動をしております。この業界は人手不足で有る為、簡単に求人もあるだろう…という考えでおりましたら、障害者雇用では、少ない状況だという事に気付かされ、焦りと不安になりました。

今は、面接に向けて、スタッフの方々のお力を拝借し、面接の練習などをして頂いております。

以前に利用者さんとの触れあいで、感謝の言葉を頂き嬉しく思った気持ちを大事にして今度、面接してもらう所でも気持ちを伝えられたら良いと思っております。 (K.S)

【そして就職活動を終えた今】

年の暮れに入った 16 日、特別養護老人ホームで障害者雇用での面接をして頂きました。緊張の中いくつかの質問に答えて、介護職の経験があることを伝えたりしていくうちにスムーズに事が運び、採用して頂く事になりました。あまりに急な採用となったので、驚きと嬉しさが混じっていたのを思い出します。先方の方から「社会復帰を一緒にしていきましょう。」と言って頂いた言葉が嬉しかったです。

来年 1 月 6 日から勤務させていただく事となり、年内でリボーンを卒業です。慌てず、先方での仕事の手順を少しずつ覚えていけたらと思っています。

(K.S)

体力づくり＝ウォーキング　展望台からの光景など

リボーンプロジェクトの 12 月 3 日の研修では、体力作りの一環としてウォーキングをしてきました。

障害者福祉センターからスタート。天候は快晴に近く、寒すぎない気温でウォーキング日和です。

まず、北区役所で行われるイベント「ふれあいマルシェ」に向かいました。響の方たちが出店し、リボーンでも作った品物が販売されていました。一通り店を見て、王子神社でお参りしました。先程のふれあいマルシェで、ワーク・イン・あすかのお店で売っているおからパン（チョコ）をみんなで食べました。就労における社会資源を知るためにも食べるのであって、決してウォーキングをさぼっているわけではありません。そこから北とぴあ展望台へ移動。15 階の高さから見下ろす景色は思っていたより、良かったという声もありました。「普段たまに来るが、皆と来ると見え方が違う」と言っている方もいました。確かに、いつでも行ける距離に住んでいると、こんな機会でないとちゃんと見ないかもしれません。展望台の望遠鏡に 100 円払われる方も。そして、エレベーターで 4 階にあるボランティアぷらざを少しだけ見学させてもらいました。そしてまた障害者福祉センターへ戻るまで計 2 時間。せかせか動いたので、疲れている方も。近場を回るのも、意外と体力作りには、持ってこいと感じたウォーキングでした。

(S.F)

1998年10月9日 第三種郵便物認可　　（毎月3回8の日発行）
2019年12月29日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6635号

配食とリボン&響で参加－障害者作品展

2019年12月7日(土)、8日(日)第37回障害者作品展が開催されました。わくわくかんが初めて障害者作品展に参加したのは、2007年。気づけばもう10年以上参加しているのですね。7日㈯は、今年一番の寒さとあいにくの小雨が降る天候の中での開催となりました。そのため、客足が大変心配でした。例年よりも人出が少なかったものの、翌日は晴れて、8日㈰は来場者が増えたようです。

今年もわくわくかんは、配食サービスのお惣菜とリボーン・ひびきの手作り小物を販売しました。リボーンでは、2本限定で準備をした、青竹踏み50円は大好評で、あっという間に売り切れました。（じつは流しそうめんをした際に使った竹を再利用したものです。）

今回わくわくかんでは、開催時間中の障害者センター内の階段付近の人員誘導係の業務委託を初めて受けることになりました。リボーンプロジェクトやひびき、A型のメンバーの協力のもと、来場された方の安全を見守りました。勤務時間が長い人では、休憩をはさみ合計4時間の勤務をされたメンバーさんもいました。座りながらのお仕事でしたが、ずっと同じ体制というのも、それはそれで大変なものです。中には知り合いの人が通るたびに声を掛けられ、戸惑う人も。それでも、このような経験はなかなかできないので、皆さん前向きに取り組んで下さいました。ご協力頂いた皆さん、ありがとうございました。

そして今回は作品展の中でいくつかの団体が事業所紹介を行いました。リボーンプロジェクトボランティア響会も紹介をさせて頂きました。15分間時間を頂き、事前に用意した資料を使って事業所をＰＲ。就労移行支援事業と自立訓練事業の多機能型で、生活の安定から就労準備までを段階を踏んで無理なく準備できることをお伝えしました。

共同連　木村英子議員迎え　1.18全国セミナー

2020年初めての共同連全国セミナーと全国会議が1月18日～19日、名古屋市内で開かれます。

18日（土）13時30分から今池ガスビル7階プラチナルームで注目の講演「介助を要する障害者の就労・社会参加」が、先の参議院選挙でれいわ新選組比例区特定枠で当選した木村英子さん（写真）が発言します。

また「仕事起こしのブライディング」と題して、地域の困りごとを起点に、社会的な価値を見つけ、それを持続可能な仕組みに変えるセミナーも行われます。

（参加費500円）

現場からの報告（ 29 ）

”好き勝手する自分”も大事に

新卒で入職してから8か月が経ちました。初めは1日が永遠のように長く感じられましたが、今ではあっという間に1ヶ月が過ぎ去ります。仕事を少しずつ任せて頂ける様になってきて、自分にもできることが増えて嬉しい限りです。

しかし、その分疲れやすくなり、”余暇の過ごし方”の大切さを身を持って感じました。それをきっかけに、段々と”努力する自分”だけでなく、”好き勝手する自分”も大事にしたい意識が増しました。既に自分自身を大事にできているつもりだったのですが、まだまだだな、と思いました。この仕事をしているおかげで、気付かされるものは多いです。これからも色々と学ばせて頂きながら、少しでも力になれる人になっていきたいです。

(G.N)

12月のはたらっくす

12月のはたらっくすは14日（土）の16～18時にわくわくかんで4名参加でした。常連のAさんが来て俄然に場が盛り上がりました。今の自分達の働いている現状をお互いに話し合ったり、タイムカードの出退勤を押し間違いの皆の体験を話しました。次回は1月11日（土）16～18時にわくわくかんで行います。あなたのご参加を是非お待ちしています。　（M）

1998年10月9日　第三種郵便物認可　（毎月3回8の日発行）
2019年12月29日発行　SSKU　増刊通巻第6635号

共同連マラソントーク片付けの「事業連携」で活発な議論

12月14日2時から赤羽会館小ホールで、共同連マラソントークが行われました。今回は、関東圏で進み始めた「片付け事業で『共働』を創ろう」がテーマ。赤羽で行われるということで、わくわくかんは事務局を担うこととなりました。

当日は、まず共同連関東ブロックの代表をされている堀合研二郎さんから、「シャロームの家」を一緒に運営しているお兄さんと共に、事業紹介を兼ねてご挨拶がありました。次に、今年20周年を迎えた大阪の「エルチャレンジ」の知的障がい者840人の就労を実現させた元気なビデオの上映を行いました。

「企業組合あうん」の中村光男さんが、片付け事業を荒川区で15年以上行っていること、「共働事業所よって屋」の重田益美さんからはあうんをモデルとして去年から片付け事業とリサイクルショップ事業を始めた府中市の事例報告がなされました。

あうんの若畑省二さんも加わって、関東圏において片付け事業を通じた社会的事業所・社会的企業づくりが、よって屋をはじめとして何ヶ所かで動きがあることを受けて、あうんとそれらの団体を網羅する形で、単なるネットワークを超えて「非営利のフランチャイズ」組織を形成することができないかという提案がありました。また、よって屋の報告では、今年12月に事業を開始して1年が経ち、片付けとリサイクルショップを合わせて1000万円以上の売上があったことの報告があり、今後の課題として賃金のアップや新しいメンバーの加入、事業の継承などを挙げていました。

全体討論は大変活発で、あうんが行っている資源買い取りの実情や、ソーシャルファームや協同組合法との関連、片付け事業を起業する場合の倉庫・仕分けの問題などで質問がありました。特に、あうんやよって屋と同じく、神奈川県で若者の就労支援とタッグを組んで片付け事業を行っている「はっぴい＆キャリー」からは、現在の事業状況の説明を受けたりしました。最後に結びとして、わくわくかんの理事長でもある共同連の斉藤さんから、今回は分野を超えた「事業提携」の時代に入ったとの挨拶がありました。

討論の中では、「フランチャイズ」という言葉に対して、コンビニなど既存のフランチャイズチェーンのイメージから、違和感や批判の意見も多かったですが、言葉の問題はともかく、片付け事業を行う「共働」を目標とした社会的事業所が、今後緊密なネットワークを組んで横に拡がっていく可能性を、強く感じることができたシンポジウムでした。

熱く　深く　埼玉・越谷で「共に働く街を創るつどい２０１９」

「省庁・自治体の障害者雇用は　共生・共働社会を拓くか？」

12月8日(日)、埼玉・越谷市で「共に働く街を創るつどい2019」が開催されました。

埼玉県庁職員で聴覚障害者の清水克彦さんは、やっと研修に手話通訳が付いたが職場内や外部での手話の普及、電話リレーサービスなどは、今後の課題。傍聴型コミュニケーション（健聴者同士でも手話を併用することで、傍にいる聴覚障害者が状況を理解できる）も重要だ。車いすの県職員が雨の日に休むことが多い。濡れるから。駐車場に屋根を設置するよう求めているが、工事費用が高いからと認められないままだと。

NPO法人やまぼうしの伊藤勲さんは、日野市が直面するプラスチックリサイクルの事業委託をめぐり、せめぎあいの最中にある。障害者ほかの就労困難者が共に働く場として想定する。やまぼうしは共に働くための条件を入札参加の全企業に示しているが、その条件に対し明確な答えを示さない企業が第1位になりそうな情勢で、元請け段階で共に働く条件が確保されなければやまぼうしは下請けになるつもりはない、と語った。

雇用率代行ビジネスで高収益をあげる「エスプールプラス」問題を世に問うた毎日新聞社会部記者の山田奈緒さんは、協定を結んだ自治体担当者の「汗水流さないでいいから」とか、企業の「知的障害や精神障害の人と働くのは難しいんですよ」と最初からあきらめている姿勢、何よりも「簡単な仕事でいいじゃない」という関係者の言葉に腹が立った。障害者も「楽でいいや」と思うかもしれないが、そうするとまた障害者のイメージが悪くなる、悪循環だと語る。

就労移行支援利用者の佐藤秀一さんは15年にわたる工場労働の経験があり、その後脳梗塞で障害が重くなったが、現場に行くととたんに意欲がみなぎる。先日、高齢者施設で食堂の椅子をテーブルに上げて掃除機とモップがけをやり、ベランダも掃除する実習をやった。残念ながら就職にはつながらなかったが、働きたかったという。そんな佐藤さんの職場実習に同行した支援員の大塚さんは、令和新撰組の木村栄子さんが提案している介助付きで働く地平を共に切り開きたいと。その現場として、自治体の公共サービスを想定し、そのありかたを問うた。

越谷地域公共サービスネットワーク議長の山下浩志さんは、来春からの会計年度任用職員制度が、障害者雇用の新たな波ともなりつつある非正規公務員の現状をさらに厳しくするのではないかと警鐘を発した。

県立大副学長・朝日雅也さんは「数合わせ」でなく「仕事合わせ」、「暮らし合わせ」を！と締めくくった。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 12 月 29 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6635 号

堀　利和（副理事長）さん、ベッドからのメッセージ

交通事故にあいましたが、現在リハビリ療養中。1.11 集会には出席します

1 月 11 日（土）、午後からかながわ県民センターで「シンポジウム・対話集会　私たちは津久井やまゆり園事件の「何」を裁くべきか！？」が開かれます。この事件を植松被告個人に全てを負わせ、施設問題、時代的背景を問おうとはしない傾向にあります。それでよいのでしょうか？この集会に事故後、はじめて出席します。

人権の本質を問う時、私たち自身も問われ、入所施設を問い、強制の本来の意味を問い、今日の時代を問うものでなければならないと考えます。そんなシンポジウム・対話集会にしたいからです。

昨年 7 月 28 日、津久井やまゆり園事件を考え続ける会主催の「地域生活にこだわる母親たちが語る」のシンポジウムで、コーディネーターには「施設解体宣言」を行った元宮城県知事の浅野史郎さんが務めました。終了後の打ち上げで、園の施設長を辞めさせ、障害者を一生閉じ込める施設にはしないと。浅野さんを先頭に県と交渉しようということになりましたが、その後、黒岩知事に影響力のある大熊由紀子さんなどを巻き込み、浅野さんが課長、部長、そして県知事と直接交渉しました。

その結果、12 月 5 日の黒岩知事の答弁になりました。津久井やまゆり園などを運営する（社福）共同会をいずれ指定管理から外し、他の法人に公募を求める。「神奈川県を福祉先進県に」などの答弁です。NHK の首都圏ネットワークの 5 日のニュースでも、「障害者を車イスに縛っていた」とアナウンス、また翌日の各紙朝刊でも報道されました。共同会の施設運営の実態がいよいよ明るみになります。やまゆり園の大型施設が問われます。

1 月 21 日（火）夜 7 時 30 分「ハートネット TV」
（2 チャンネル　E テレ）をぜひ見てください！！

当番組のディレクターが、昨年 7 月当選のれいわの二人、舩後、木村両参議院議員誕生をきっかけに、『生きざま政治のネットワーク障害者の議会参加』（堀利和著・現代書館　1995 年）を読み、90 年代以降の障害者の政治参加を番組として取り上げることとなりました。

私は、9 月に取材を受け、番組の内容について相談しながら、12 月 3 日にインタビューを受けました。81 年の国際障害者年の「社会参加」から「政治参加」への時代に、障害当事者の議会参加の運動がテーマです。
ぜひ番組をご覧ください。

書評

精神病院の奴隷的拘束の日常性を描写

”医療・福祉労働の経験を通して「事件」を考える”

たまたまある縁で前澤ゆう子さんの”医療・福祉労働の経験を通して「事件」を考える”という文章を読む機会があった。「事件」とは津久井やまゆり園事件のことである。医療・福祉労働者として「私は加害者にも被害者にもなりえた、いや、医療・福祉の現場で働いてきたこと自体、「加害者」により近い、ここから出発したい」とするルポルタージュである。

前澤さんには、障がい者が「健常者」とは別の、分けられた場にいること、「する側」と「される側」との、特殊な関係性にあることに対し自覚的である。「排除」の時代、大切な市民的公共性の感覚である。介護労働とは、慢性的な人手不足の中での過重労働であるため「する側」の「自分は自己犠牲的に善いことをしてあげている」との独善性が高いことにも体験を通して具体的に語る。また同僚が医師、正看護婦、準看護婦、看護助手など、立場や役割が分断され、待遇面でも差別され、過労うつ状態になって二年が限度で疲労困憊して退職、少し回復すると他の病院で働く「季節看護労働者」がいかに多いかと語る。この風景はイヴァン・イリイチが描いた管理社会の世界に限りなく重なる。

その前澤さんにとってさえ精神病院に働くようになって「ひっくり返るような衝撃」を受ける。「保護室」「電気ショック」…「病院」という名の隔離収容施設。それに抗議したが、患者Ａさんへの手紙が病院に渡って「配転処分」とその闘いに疲弊する。国立市の体験劇『絹子ものがたり』にも描かれた「介護者と支援者の独善性」の壁の中でもがいている。

この作品は日本の病院・施設の分断された空間の中で蜂の巣状に区切られた当事者と看護労働の万華鏡的な写し絵である。植松被告が絶望するにいたった精神病院の無気力と絶望がどのように育っていったかが理解される作品だ。イタリアのバザーリア医師が起こした「精神病院解体」に進みえない日本の薬・施設付けの状況をどのように変えるか。「健常者」と「当事者」の分断を打ち破って「共に」に進めることがいかに必要かが痛感される自伝的な怪著である。労働者文学 2019「評論・ルポルタージュ部門」受賞作品である。　　（k）

1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可 （毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 12 月 29 日発行 SSKU 増刊通巻第 6635 号

体験劇『絹子ものがたり』のど迫力

国立市の「人権事業週間」に演じられた体験劇『絹子ものがたり』の迫力がすごい。重度障がい者で 44 年間、自立して暮らしている三井絹子さん（74）の闘いの半生。それはそのまま日本の重度障がい者が地域にでる闘いの記念碑そのものです。

「絹子は生まれてすぐに高熱が出て、言葉を失い、体がぐにゃぐにゃになり、重度のしょうがいしゃになりました」のナレーションから始まる。20 歳になり、施設に仕方なく入所、あらゆる「あたりまえ」が奪われます。府中療育センターの男性職員の入浴介助にショックを受け同性介助を求めての入浴拒否闘争。同センターの郊外移転に反対して都庁前座り込み。そんな中で夫となる三井敏明さん（71）に出会って結婚。地域で暮らしたいと施設を出て国立市へ。その後妊娠、出産、育児へ。この闘いの中で「当事者」と「支援者」の間にも違いを生んだ経過も語られます。劇には、夫の敏明さんも娘も孫も登場するだけでなく、先の参議院選挙で当選した木村英子さんが登場、絹子さんと暮らした映像にも触れる印象的なものでした。

美濃部都政下で闘われた迫力ある貴重な映像。地域では４０年前、障がい者が地域で暮らし、子どもを産み育てるには多くのバリアーがあった。それに挑んだ絹子さんの闘いが国立市に人権を育てた。2000 年の「この世に正しい戦争はない」とする平和都市宣言、2005 年「しょうがいしゃがあたりまえに暮らすまち宣言」に始まって、2014 年のしょうがい者（児）地域参加サポート事業の開始や「あたりまえに暮らすまち宣言」条例施行、２０１７年の国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例で国立市は重度障がい者の日本一暮らしやすい町になった。そして昨年４月、ソーシャルインクルージョンの理念が入った「国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり条例」を実施、先進的自治体として知られている。

就労支援センター北わくわくかん

登録者（2019年 11 月末）888 名
就職者 ６名（事務３、清掃 1、洗い場 1、歯科助手 1）

先月 ご協力いただいた皆様

東京都労働局・東京都精神保健福祉民間団体協議会・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉センター・ハローワーク王子・池袋・飯田橋・上野・東京障害者職業センター・東京しごと財団・東京都立精神保健福祉センター・東京都立王子特別支援学校・北区社会福祉協議会・北区教育委員会・津久井やまゆり園事件を考え続ける会・NPO 法人障害者の職場参加をすすめる会・企業組合ワーカーズコレクティブキャリー・NPO 法人ゆめ風基金・あしたや共働企画・きょうされん東京支部・特定非営利活動法人のらんど・ＮＰＯ法人ソーシャル・クリエイターズ・企業組合あうん・共働事業所よって屋・シャロームの家・NPO 法人太陽と緑の会・認定ＮＰＯ法人やまぼうし・エルコープ協同組合運動研究会・オレンジコープ・労働者文学会・葦牙等、お世話になりました。

グループホームわくわくかん

4 名定員中 3 名の方が入居中です。現在、共有タイプのお部屋が 1 室空いています。18 歳の 0 さんが 1 泊 2 日の体験をされました。とても緊張していたため、思うように言葉が出ないご様子でした。慣れない職員相手に無理にお話を聞くよりは、体験を重ね少しずつお気持ちを確認出来ればと思い、ほとんどお話はしませんでした。体験が終わって、隣室者の I さんに「0 さんの体験どうだっだ？」と聞いたら「かわいい子だね。いろいろお話したよ。」との事。I さんの話では身長が高くて羨ましい！いくつあるの？等、職員以上に 0 さんの話を引き出していました。さすが I さん、脱帽です。

▼編集後記▼

ペシャワール会の中村哲さんの死ほど悲しく衝撃的なものはない。彼の 30 年にわたるひたむきな活動によって、乾いた大地の 16,000 ヘクタールを灌漑し、緑の畑と果樹園に変え 60 万人の人々に恩恵を与えた人がなぜ殺されねばならないのか。元在日アフガニスタン大使の A. Muhtat さんは、背景は水問題だという。山岳地帯のアフガニスタン、イラン、パキスタンとの間の水争いがあり、中村さんの真珠の水と呼ばれた灌漑水路の「命の水」を開いたことが狙われたという。飢えと貧困には兵器や軍隊でも薬ですらなく、小麦を生む大地と水とした中村さんの信念と生きざまは、私たちが敗戦後、手にした憲法 9 条の非武装平和の意思を体現した生き方そのものだった。ペシャワール会の福元満治理事は「中村さんはあと 20 年やる」といっていたという。忘れまい、深く心に刻みたい。

発行所 郵便番号 157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価 100 円（会費に含む）